

ちちぶだより



自分で焼いた竹パン「最高です！」

2023年 第342号

○ 園長就任のご挨拶	阿久根 徹	2
○ 令和五年度体制について	齋 藤 晴 美	2
○ 令和五年度地域支援課体制について	齋 藤 信 哉	3
○ 令和五年度地域療育支援室体制について	真 壁 毅	3
○ 令和五年度地域移行推進課体制について	伊 藤 隆	4
○ 令和五年度療育支援課体制について	齋 藤 奈津子	4
○ 令和五年度第一回秩父学園自閉スペクトラム症 子育て支援セミナー開催のお知らせ		4
○ 令和五年度職員配置		5
○ 各寮の様子 春編	かりん寮 岡 崎 恵美子	6
	けやき寮 野 口 修 史	6
	どんぐり寮 日 野 憲 文	6
	くぬぎ寮 須 永 貴 之	7
○ 令和四年度事例報告会		7
○ 職員の動き		8
○ 入所児童の動き・行事予定		8

園長就任のご挨拶

園長 阿久根 徹



四月一日付で、国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長、併任秩父学園長に就任いたしました。前職は国立障害者リハビリテーション病院副院長で、九年間、整形外科、リハビリテーション科医師として、主に肢体不自由の方のリハビリテーション医療を担当してきました。また、秩父学園の園児の方も時々整形外科の外来に來られましたので、外傷その他の診療を行っていました。

昨年度は、副院長のほかに学院長も併任しており、知的・発達障害関係では、学院の児童指導員科および研修事業の教職員の方々と協力して、人材育成にも取り組んでまいりました。

伝統ある秩父学園において、園児に安心して生活の場を提供し、支援を行っていくとともに、これからの時代の秩父学園にとって必要なこと、求められていることが実現できるよう取り組んでいく所存です。どうぞよろしく願っています。

令和五年度体制について

次長 齋藤 晴美

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園の組織改正が行われ、令和五年

度から、園長は国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長が併任することとなり、新たに次長ポストが設置されました。この次長に就任しました齋藤晴美です。この秩父学園で、こどもに関わる仕事ができることを大変うれしく思っております。

今回の組織改正では、次長の他にも園生医務室に、園生医務室看護師の業務の総括等を行う医事管理主事を設置することで、組織体制の強化を図っております。

私はもう十年近く前になりますが、厚生労働省で児童環境づくり専門官を六年間務めました。その間、こども達が安心して過ごせる環境づくりや健全育成のための施策として、放課後児童クラブや児童館、児童委員・主任児童委員、児童福祉文化財などを担当してきました。当時、仕事が楽しくて楽しくて、天職だと思って取り組んでいたのですが、ふと、「専門官」を名乗るには専門性が足りないのでは・・・と疑問を持ち、その名に恥じないよう専門性を高めたいと思い、保育士資格を取得しました。現場経験のないパーパー保育士ではありますが、職員の皆様のお力をお借りしながら、入所児童の皆様の充実した生活に少しでも貢献できるよう、一生懸命やっていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願っています。

今年度から、新たにこども家庭庁が設置され、こどもがまんなかをスローガンに、障害児の支援も含めた各種施策が取り組まれていくこととなっています。秩父学園では、これまでも入所児童やそのご家族にとって、安心して利用でき

る施設となるよう取り組んできましたが、さらに、こどもたちが笑顔でいられるように、関係機関や地域の皆様のご協力も得ながら、今後とも全力で取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

その取り組みを進めるためにも、次の二点が重要ではないかと考えています。

一つ目は、職員の働きやすさ、そして風通しのよい職場環境づくりです。私たち職員は、日々、入所児童の皆様やご家族の方々と接する中で、様々な問題や課題にも直面することがあるかと思えます。そのような中でも、職員が働きやすく、悩んだ時は上司や同僚に相談しやすい環境を作っていくことが必要と考えており、職員相互のコミュニケーションを大切にしていきたいと考えています。

二つ目ですが、よりよい支援を提供するため、入所児童の皆様やご家族の方々が抱える課題や問題を共に取り組んで解決していくことが、最も大切なことだと考えています。このため、入所児童の皆さんやご家族の方々とのコミュニケーションを十分に行い、それぞれに合った支援の提供に努めていきたいと考えております。

最後に、職員の皆様と、入所児童やご家族の方々の声をしっかりと聴く姿勢を持ち続け、また、入所児童の皆さんやご家族の方々にとって、どのような支援が必要であるのか、常に問いながら、入所児童の支援の充実とともに、必要な情報の発信を進めていきたいと考えておりますので、どうかよろしく願っています。

令和五年度 地域支援課体制について

地域支援課長 齋藤 信哉

令和五年度は、国立障害者リハビリテーションセンターの第三期中期目標の四年目にあたります。今年度は、地域支援課四名、地域療育支援室三名（併任四名）の職員体制で、厚生労働省の障害児入所施設の在り方に関する検討会報告書に示された四つの機能（発達支援機能・自立支援機能・社会的養護機能・地域支援機能）に沿って取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症の状況をみながら見学、ボランティア等、地域の方達との交流の受入を考えて行きます。

中期目標に関する取り組みとしては、

(1)「発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート」として、知的障害児の事業所、保育所、幼稚園、児童養護施設等へ職員を派遣しております。

サポート内容は、①秩父学園を実習研修場所としての提供、②勉強会の講師派遣、③発達や行動が気になるお子さんへの支援の見立てや環境設定の提案、④ケース検討会への出席、⑤情報提供や支援者セミナーの実施、となります。

昨年度は、県内の保育所・生活クラブからお申し込みいただき、事業所を訪問して「支援の見立てや環境設定」についての助言等を行いました。今年度も多くの皆様にお声かけいただけたら幸いです。

(2)「自閉スペクトラム症子育て支援セミナー」

は、発達障害に関わるご家族や福祉施設職員、教育機関等の方々を対象に開催しております。今年度も夏と冬二回、オンラインでの開催を予定しております。

また、地域との交流については、所沢市自立支援協議会こども部会、埼玉県発達障害協会の各委員会、Light it up blue所沢実行委員会等に職員を派遣し、積極的に取り組んで行きます。今年度も秩父学園の入所児童を始め、地域に貢献できる事業を展開し、その成果をより多くの皆さまに役立てて頂けるような業務を行っていききたいと思います。

令和五年度 地域療育支援室体制について

地域療育支援室長 眞壁 毅

国立障害者リハビリテーションセンターの第三期中期目標の四年目となる今年度は、三名（併任四人）で業務にあたります。

地域療育支援室としては、大きな三本の柱として幼児通園療育（たんぽぽ）、発達障害児等デイサービス事業（なかま）、地域子育て支援拠点型事業（出張なないろフォロー）を行っていきます。

幼児通園療育（たんぽぽ）では、保育所・幼稚園に通園する、発達や行動が気になる幼児を対象に、週に一度グループ療育を実施するとともに、保育士・幼稚園教諭等を対象にした支援方法の実践研修を行う保育実践研修も行います。療育での個別対応支援を、保育という集団

の場面で活かせてもらえるよう創意工夫に努めていきます。

発達障害児等デイサービス事業（なかま）は、全国の放課後等デイサービス事業所に活動プログラム等をモデル発信することを主目的として行います。発達や行動が気になる児童及びそのご家族を対象とし、集団活動への適応を目指した療育支援とご家族への支援を行います。

地域子育て支援拠点型事業（出張なないろフォロー）では、発達に心配のあるお子さんとそのご家族が、身近な児童館で、より安心して、より楽しく遊ぶことができるよう児童館をサポートします。

他にも、発達や行動が気になるお子さんを支援する職員を対象とした「発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート」を行います。全国の施設へ出向いて、あるいはオンラインを活用して、気になるお子さんの見立てを行ったり、事業所内の研修での講師を務めたりと、それぞれが必要とされるサポートを提供していきます。

これまでは、新型コロナウイルス感染を予防するために行動が制限されてきましたが、感染症法上の位置づけが二類から五類相当に引き下げられたことで、子どもたちもご家族も私たちもチャレンジできるが増えると思います。地域で生活されるお子さん、子育て世帯の方、子育て支援に関わる全国の方にとって、地域療育支援室の事業が有益なものとなるよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

令和五年度 地域移行推進課体制について

地域移行推進課長 伊藤 隆

令和五年度がスタートしました。国立障害者リハビリテーションセンターの第三期中期目標の四年目となります今年度は、二名の職員が異動となり、四名の職員で業務にあたりますが、ご家族・保護者等の皆様には、秩父学園を利用して良かったと言って頂けるよう、皆様が必要とする支援の提供に努めて参ります。

昨年度は、一名の方が秩父学園より巣立られました。次のステージへと移されましたが、引き続きアフターフォローを継続しながら、困りごとの解決等のお手伝いをさせて頂きたいと思っています。

そして、これから次のステージを目指される児童の方たちにつきましても、ご本人の成長の評価と支援の達成度合いを鑑みながら、ご家族・保護者等、関係各機関との調整、連携を行いつつ、今後をしっかりと見据えた移行支援をさせて頂きたいと思っています。

一方、入所におきまして、昨年度は、十一名の児童をお迎えしました。年度を通して関東近県のみならず、各地より多くの入所相談を受けましたが、お話を聞くにつれ、秩父学園が国立の福祉型障害児入所施設として必要とされていることを実感するとともに、各事業所、各都道府県で受入れが難しい方々におかれましてはご本人の福祉が損なわれることの無いよう留意しつつ、入所につながらなかった場合においても

秩父学園が何らかの形で支援をして差し上げていかなくはないと強く感じております。

入退所業務に限らず、各種手当てに関する事務手続き等、地域移行推進課は多岐に渡った業務を行っておりますが、職員一同でご家族・保護者等の皆様のご理解、ご協力を頂きながらスムーズでの確な「かゆいところに手が届く」対応を心がけていきたいと思っています。

ご質問、お問い合わせ等、いつでもお待ちしておりますので、お気軽にご連絡下さい。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

令和五年度 療育支援課体制について

療育支援課長 齋藤奈津子

新年度がスタートしました。

今年は、特別支援学校中学部に一名、高等特別支援学校に四名が入学、特別支援学級から特別支援学校への転入学も二名あり、それぞれ緊張した面持ちでスクールバスに乗って登校しています。寒暖差の激しいこの季節ですので、体調面・精神面等に配慮しながら支援を進めて行きたいと思っています。

療育支援課は、今年度も引き続きケアニーズの高い児童の支援、強い行動障害等により登下校や授業への出席が困難な児童についての支援に取り組んで参ります。

定期的に開催するケースカンファレンス、朝礼後の事例検討会や発達支援主事が中心となり開催する支援会議、外部アドバイザーを招聘し

でのケース検討会等を通して、組織で課題や対応について共有し、迅速に対応できるような体制を整えて行きます。また、支援力の向上を目指し昨年度作成した「秩父学園研修計画」に沿って、経験年数や課題等に応じた研修を、今年度発足した職員研修推進チームを中心に体制作りをいたします。また、これまで第三期中期目標に掲げ取り組んできた秩父学園の機能強化について、児童の課題や必要な支援等に着目した生活寮の再編に向けて検討を進めていきましたが、今後はさらに実現に向けた具体的な議論を進めていくことが必要であると考えています。

入所児童の健康管理については、園生医務室看護師と寮職員が協働し、主治医との情報共有や連携も密にしながら担って行きます。

今後新型コロナウイルス対応も少しずつ変わっていくことと思われます。児童の安全安心な暮らしを保障することはもちろんですが、活動の保障や社会参加の機会を大切に、児童の支援にあたりたいと思います。

令和五年度

第一回秩父学園自閉スペクトラム症 子育て支援セミナー開催のお知らせ

自閉スペクトラム症及びその他発達障害のあるお子さんのご家族や保育士、福祉施設職員等の方々を対象に、療育の知識や支援方法を学ぶことを目的としたセミナーを年二回開催しています。今年度第一回の子育て支援セミナーは七月二十九日(土)に開催します。

※詳細は秩父学園ホームページをご覧ください。
ホームページ: <http://www.rehab.go.jp/chichibu/>

令和五年度 職員配置

第 342 号 (5)

ちちぶだより

園長	阿久根 徹	地域療育支援室	真壁 毅	櫻井 朋子	館内 圭子
次長	齋藤 晴美		大館 桂子	上小路希美	石川美奈子
《庶務課》			高橋 早紀	飯塚 七海	
庶務課長	時末 大揮			加瀬 優奈	
庶務・会計・給食係長	山本 香織			星野 摂子	
庶務係	小山 翔子	《地域移行推進課》		渡辺 愛子	どんぐり寮
庶務・会計係	茂木 康平	地域移行推進課長	伊藤 隆		寮長
ボーラー技師	上田 高幸	児童調査主事	松上 耕祐		
運転士	松村熊三郎		米光 恭祐	久郷 英伸	
事務補助員（庶務係）	関口 桂子		山本 歩実	大野さち子	
事務補助員（給食係）	橋本 知恵			津留 信久	
栄養士	島田 結実	《療育支援課》		野口 修史	
調理師	戸村 浩	療育支援課長	齋藤奈津子	星 湧人	
調理補助員	吉田 泉	療育支援主事	渡邊 浩伸	岡部 智子	
	落合 良浩	発達支援主事	村上 功二	星 美弥子	
	新井 博久		安部 匠	山崎 玲子	特別支援室
	青木 壽子	心理療法師	坂寄 里紗	箕輪 梨恵	
	渡沼 洋子	心理療法師	阿部 萌		
	伊藤亜紀子	言語聴覚士	生方 歩未		
《地域支援課》					
地域支援課長	齋藤 信哉	西棟			
地域支援主事	杉永麻菜美	寮長	鈴木 綾子		
	三浦 広充		岡崎恵美子	須永 貴之	
	金垣 明		山本 文世	山本 優子	
	杉崎 純子		浦野 清美	中田 竜太	
	加賀 滉樹		島田由起子	佐山 智洋	
				金 秀行	
				勝又 祐貴	
				三浦 秀真	
（自己啓発休職）					

各寮の様子 春編

かりん寮

岡崎 恵美子

三月二十五日から春休みが始まりました。かりん寮の女の子たちは、毎日、髪型やメイク、マニキュアと学校のお休み時には、おしゃれに余念がない様子でした。今年は、桜の開花が早く、春休みになる前に桜も散ってしまうだろうと思いきや、予想外の桜ロングラン。天気の良い日には、外で花見ランチをしたり、雨の日も室内からお花見したり。桜を良く愛でた三月となりました。イベント好きのかりん寮の春休みは、カップケーキやヨーグルトを使ったさつぱりチーズケーキのクッキングを楽しみました。自分の分のケーキのトッピングをし、それぞれに思いの詰まった美味しそうなケーキを作っていました。また、アウトドアパンのイベントがあり、竹に巻いた生地を炭で焼いて食べました。アウトドアパン作りは初めての事でもあり、興味津々。ルールを守って安全に楽しくイベントに参加できました。

進級する人、卒業を迎え新たな学校へ行く人、期待と不安が入り交じる春休みでしたが、元気で楽しそうに笑っている姿は頼もしくもあり、それぞれに成長を感じることができました。今後も、皆で楽しめる活動を企画していきたいと思っています。

けやき寮

野口 修史



学園の桜も三月の終わりには満開を迎え、みんな桜を見ながら散歩をしました。昨年度の春休みは、新型コロナウイルスの影響で日々の余暇活動に制限があり、満足のいく春休みを過ごすことが難しかったのですが、今年度の春休みは、日々の余暇活動を楽しみ、皆さんにとって満足した春休みとなりました。買い物や満開の桜の中、散歩を楽しんだり、体育館でバスケット、バドミントンなど、汗をかきながら体を動かすことも楽しめました。

どんぐり寮

日野 憲文



学校を卒業された方、進級をされる方と春休みに入るタイミングがバラバラだったので、先に春休みに入った方はまだ学校に行きたいと訴えてくる場面がありました。今まで学校に行くことが普通だった日常から、行かないことが普通の日常に変化するということは大変ストレスになるのだと感じさせられました。そこで少しでもストレスの軽減になればと散歩に行ったり、お花見をしたりと寮で楽しめるように工夫をさせていただきました。桜は例年より開花が早かったですが、あいにく天候は悪い日が続きたから、美味しいね」と感想を言っていた方もいて、良い調理体験となったようです。

四月となり新年度を迎えると、皆さん学校の新学期を楽しみにしている様子が見られます。今年度も、けやき寮職員一同、児童の皆さんの成長に向けて、日々の支援に励んで参りたいと思います。今年度もよろしくお願い致します。

春休み前半は外に出られない日が多かったです。花見予定日は天気予報では雨は降らなそうな感じでしたが、なぜか当日になると雨がしとしと降ってしまいました。幸いどんぐり寮の食堂からは桜が見えるので、食堂の中から桜を見ながらお弁当を食べ、少しはお花見気分が味わえたかと思います。

四月になり新年度を迎えると、子ども達からは学校や寮職員の変化に対して不安を感じていたり、期待をしていたりということを感じます。不安に対しては丁寧な説明と話を聞く姿勢を大切にしながら、期待に対しては十分に伝えられるようにどんぐり寮職員一同がんばっていきま



くぬぎ寮

須永 貴之

今年のくぬぎ寮の春休みは、学校がお休みに入る少し前に新たに新小学二年生の児童を迎え、一方では進学のタイミングで退園する児童がいるなど、出会いと別れがありました。子ども達にとっては生活と共にした仲間との別れに寂しさを感じたり、小さな新しいお友達を前に、少しお兄さんらしい姿を見せてくれたり、忙しい春休みの始まりでした。また、四月になると人事異動で寮の職員の顔ぶれにも少し変化がありました。子ども達は新しく寮に来てくれた職員との関わりを楽しみつつ、ずっといる職員との関わりには安心感を得る様子も見られ、それぞれが生活環境に変化を感じたことと思います。

そのような中、春休みのお楽しみイベントとしてドライブを企画しました。社会的には新型コロナウイルスの感染者が少なくなったとはいえ、秩父学園は入所施設である以上、水際対策を緩めるわけにはいかず、子ども達には思い切りお楽しみを提供できない状況が続いています。それでもドライブではみんなが大好きなマクドナルドで軽食を購入し、暖かな風を感じながら屋外で食べました。



くぬぎ寮の皆さんが過ごす傍らでは、少し早めに咲いた桜がすぐには散らず、ゆっくりと咲いていくので、散歩などで外に出ると桜吹雪が春の訪れを感じさせてくれました。これから葉桜になるなか、「くぬぎっ子」たちも新学期を迎えます。また一年、季節を感じながら楽しい思い出を重ねてほしいと思います。

令和4年度秩父学園事例報告会

	所 属	発表者	演 題
1	地域療育支援室	渡邊 浩伸	発達が気になる子の保育実践研修について
2	療育支援課 くぬぎ寮	佐山 智洋	他児への過干渉のある児童への支援
3	療育支援課 かりん寮	植田 萌衣	Aさんの適切な感情表現の学びについての支援
4	療育支援課 けやき寮	狩野 絢祐	特別支援学校5年生の児童への他害行動に対する支援
5	療育支援課 どんぐり寮	坪井 敦憲	知的障害のある児童に対する情緒面への支援

三月八日に令和四年度の事例報告会を行いました。各寮より一題ずつと、地域療育支援室より一題の計五題の事例について、日頃の支援や事業の成果をオンラインで発表しました。この報告やその後の支援も含め、今後もブラッシュアップして発表できる機会を作りたいと思います。

令和四年度事例報告会

職員の動き

◆ 令和五年三月三十一日付

安藤 幹博 辞職（療育支援課 どんぐり寮）
大門 亜希子 辞職（療育支援課 どんぐり寮）
永吉 敏広 任期満了（療育支援課どんぐり寮）

◆ 令和五年四月一日付

小松 秀夫（園長）
こども家庭庁支援局家庭福祉課へ
本間 浩（庶務課長）
厚生労働省近畿厚生局健康福祉部
健康福祉課へ
三島 俊行（庶務課課長補佐）
こども家庭庁支援局家庭福祉課へ
志田 崇（庶務課会計係長）
こども家庭庁支援局虐待防止
対策課へ
杉本 拓哉（地域支援作業療法士）
こども家庭庁支援局障害児
支援課へ
平山 聡美（療育支援課 くぬぎ寮）
国立障害者リハビリテーション
センター学院へ



阿久根 徹
自立支援局長
秩父学園長併任
（国立障害者リハビリテーション
センター病院副院長・学院長併任）



齋藤 晴美
次長
（厚生労働省子ども家庭局家
庭福祉課より）



時末 大揮
庶務課長
（厚生労働省社会・援護局
障害福祉保健部企画課より）



山本 香織
庶務課 会計係長
（国立武蔵野学院より）



秋山 佳秀
療育支援課・特別支援室長
（国立障害者リハビリテー
ションセンター学院より）



金 秀行
療育支援課くぬぎ寮
（国立武蔵野学院より）

入所児童の動き

○三月に男児一名が入所されました。男児一名
が埼玉県内の福祉型障害児入所施設に移られ
ました。

行事予定

6月10日(土) わかば祭
29日(木) 研修報告会

7月6日(木) 虐待防止委員会
身体拘束等適正化委員会
19日(水) プール開き
29日(土) 子育て支援セミナー

編集後記

「秩父学園のいいところを見つけて発信
したいの」フレッシュな職員の言葉にハッ
としてじゅん。新しい目で見るといろいろ
な発見があるのでしょ。今年も桜が美し
く咲きましたが、昨年とは違う桜、違う春、
違う日々。新年度が始まりました。毎日が
新しい。
(麻)



発行日 令和五年六月五日
発行 国立障害者リハビリテーション
センター自立支援局秩父学園

住所 〒359-0004
埼玉県所沢市北原町860
TEL 04-2999-2839
FAX 04-2999-2253
chousa-chichibu@rehab.go.jp